

## Contents

演劇次期芸術監督 小川絵梨子 .....	2
<hr/>	
2018/2019シーズン 演劇 ラインアップ .....	3
誤解 .....	4
誰もいない国 .....	7
スカイライト .....	9
フルオーディション1 かもめ .....	12
少年王者館 1001(イチゼロゼロイチ)(仮題) .....	15
オレスティア .....	17
野木萌葱 新作 .....	21
<hr/>	
こつこつプロジェクト —ディベロップメント—	25
リーディング公演	
<hr/>	
公演一覧(1997.10~2018.7) .....	27

## 2018/2019 シーズン 演劇

### 演劇次期芸術監督 小川絵梨子



2018/2019 シーズンより、新国立劇場の演劇芸術監督を務めさせていただきます。頂きました大任に、感謝を持って真摯に臨んで参ります。どうか宜しくお願い申し上げます。

これからの四年間における大きな方針として、三つの柱を考えています。

一つ目は、幅広い観客層に演劇をお届けすること。

国立の劇場として、一人でも多くの方に舞台と出会って頂きたいと思っています。これは新国立劇場が誕生して以来、国立の劇場の責務として引き継がれていることでもあります。任期中、唯一無二の斬新な新作から古典作品まで幅広い作品の上演に加え、子供と大人が楽しめる企画作品や日本各地へのツアー公演なども旺盛に行っていきたいと思います。

二つ目は、演劇システムの実験と開拓。

これには、新シーズンから始まるフルオーディションやディベロップメントが含まれます。オーディション企画では、すべての配役をオーディションで行います。作り手が作品そのものと純粋に向き合い、そこに必要な俳優と出会うことは、舞台づくりに最も重要なことの一つだと考えます。毎シーズンに一本は、フルオーディションによる公演を予定しておりますが、第一回目となる今回は、鈴木裕美さんが演出として参加して下さいます。ディベロップメントは、「こつこつプロジェクト」と銘打ち、一年間を通して作品を育てていくプロジェクトです。通常の1、2ヶ月という稽古期間にとらわれず、長いスパンでの創造の過程を経て、作品が体力をつけ鑑賞と批評に耐えうる強度を持った時に上演を行います。作り手の作品への理解と想像力を培い、一人でも多くの観客の方に舞台の豊かさを伝えられる公演を目指します。第一回は、劇団を持たずフリーで活動されている、大澤遊さん、西悟志さん、西沢栄治さんの三人の演出家の方をお迎えしました。これらの実験と開拓が、地層が幾重にも重なっていくように、少しずつでも積み重なり発展していくことができれば本望です。

三つ目は、横の繋がり。

国内外を問わず、演劇の作り手の方々との交流や連携を積極的にしていきたいと思っています。具体的には、新国立劇場で行う一般の方々に向けてのワークショップや講演などにおいて豊かな経験と知識を持つ演劇団体のご協力を仰ぎ、共同での演劇活動を行いたいと思っています。また海外の国立劇場との交流や国内外の招聘公演を行う予定です。国や立場は違えど、同じ演劇という世界に住む方々と交流を通して共に学び合い、演劇の発展と社会における有用性を高めることを目指します。

私の芸術監督就任一年目となる2018/2019シーズンでは、稲葉賀恵さん、寺十吾さんのお二人の演出家に、新国立劇場に初めてご登場いただきます。上村聡史さんには、現代の劇作家が翻案するギリシャ悲劇作品をお願いいたしました。また、私自身は、野木萌葱さんをお願いした新作戯曲と、海外戯曲の演出を務めさせていただきます。また招聘作品として、名古屋で長年創作活動が行われている天野天街さん率いる少年王者館にご登場いただけることになりました。

演劇は時代を映す鏡と言う一方、ある時間ある場所に俳優やスタッフがいて物語を語りそこに観客がいる、という形態そのものは有史以来、変わらずにあるものと認識しております。演劇に携わる一人として、古いものを捨て去るのではなく、発展させながら、新しい創造に挑戦していきたいと思っています。

舞台という豊かな世界を、一人でも多くの皆様に楽しんでいただければ幸いです。

〈プロフィール〉

1978年、東京生まれ。2004年、アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外派遣制度研修生。10年、サム・シェパード作『今は亡きヘンリー・モス』の翻訳で第3回小田島雄志・翻訳戯曲賞受賞。12年、『12人～奇跡の物語～』『夜の来訪者』『プライド』の演出で第19回読売演劇大賞優秀演出家賞、杉村春子賞受賞。14年『ピローマン』『帰郷・The Homecoming』『OPUS/作品』の演出で第48回紀伊國屋演劇賞個人賞、第16回千田是也賞、第21回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。最近の演出作品に『スポケーンの左手』『RED』『夜想曲集』『ユビュ王』『死の舞踏/令嬢ジュリー』『CRIMES OF THE HEART 一心の罪』『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『The Beauty Queen of Leenane』など。新国立劇場では『OPUS/作品』『星ノ数ホド』『マリアの首 一幻に長崎を想う曲一』の演出のほか、『ウィンズロウ・ボーイ』の翻訳も手がけている。18年9月より新国立劇場演劇芸術監督。

# Drama

2018/2019 シーズン 演劇 ラインアップ  
〈計7演目〉

2018年10月

新訳上演

## 誤解

作: アルベール・カミュ  
翻訳: 岩切正一郎  
演出: 稲葉賀恵

2018年11月

## 誰もいない国

作: ハロルド・ピンター  
翻訳: 喜志哲雄  
演出: 寺十 吾

2018年12月

新訳上演

## スカイライト

作: デイヴィッド・ヘア  
翻訳: 浦辺千鶴  
演出: 小川絵梨子

2019年4月

新訳上演

フルオーデション1

## かもめ

作: アントン・チェーホフ  
英語台本: トム・ストツパード  
翻訳: 小川絵梨子  
演出: 鈴木裕美

2019年5月

新作

少年王者館

## 1001(イチゼロゼロイチ) (仮題)

作・演出: 天野天街

2019年6月

日本初演

## オレスティア

原作: アイスキュロス  
作: ロバート・アイク  
翻訳: 平川大作  
演出: 上村聡史

2019年7月

新作

## 野木萌葱 新作

作: 野木萌葱  
演出: 小川絵梨子

2018年10月  
＜新訳上演＞  
New Translation

# 誤解

The Misunderstanding

小劇場

●会員先行販売期間：2018年7/29(日)～8/7(火)

●一般発売日：2018年8/11(土・祝)

作：アルベール・カミュ

Written by Albert CAMUS

翻訳：岩切正一郎

Translated by IWAKIRI Shoichiro

演出：稲葉賀恵

Directed by INABA Kae

出演：原田美枝子 小島 聖 水橋研二 小林勝也 ほか

Cast : HARADA Mieko, KOJIMA Hijiri, MIZUHASHI Kenji, KOBAYASHI Katsuya and another

## 作品

小川絵梨子芸術監督シーズンのオープニングは、20世紀フランスの劇作家、作家アルベール・カミュの『誤解』を上演します。

カミュの戯曲は我が国でも折に触れ上演されてきましたが、とりわけ『誤解』は1951年の文学座の日本初演以来何度も上演されている、比較的馴染みのある作品です。今回、新国立劇場で初めてカミュを上演するにあたり、その演出を担うのは、文学座の演出陣でも、最近その活躍が注目されている新鋭、稲葉賀恵です。文学座アトリエの会で上演された『十字軍』（ミシェル・アザマ作）、『野鴨』（イプセン作）での緻密で丁寧な舞台創りが高く評価されたのも記憶に新しいところです。

若い演出家が挑む、21世紀のカミュ、ご期待ください。

## 物語

ヨーロッパの田舎の小さなホテルを営むマルタとその母親。今の生活に辟易としているマルタは太陽と海に囲まれた国での生活を夢見て、その資金を手に入れるため、母親と共犯してホテルにやってくる客を殺し、お金を奪っていた。そこに現れる絶好的である男性客。しかし彼は二十年前に母親と妹マルタを置いて出て行った兄ジャンであった。今では金持ちになり、苦勞をしているであろう母と妹を助けようと、客を装って宿にやってきたのだ。素性を明かさきっかけを失い身分を隠し続けるジャンと、そうとは知らずに殺人計画を推し進めるマルタと母親。誤解から生じる家族の悲劇――。

**翻訳家からのメッセージ****岩切正一郎**

『誤解』の物語の出発点は、1935年に新聞の三面記事に載ったウクライナの町での殺人事件だ。翌年カミュは当時のチェコスロヴァキアに旅し、そのときの経験をもとに舞台をチェコの町に置いて戯曲を構想し、1943年に原稿をガリマール社に送った。初演は1944年6月、ナチ占領下のパリである。

執筆当時カミュはアルジェリアの太陽、海、家族から隔絶されて、南仏の山間の町にいた。戯曲の舞台となる町はこの閉塞した、自由のない、息苦しい状況を反映している。そして太陽と海に憧れているヒロインのマルタにカミュは自分を投影している。

『カリギュラ』を含む「不条理」三部作、に続く「反抗」をテーマとするサイクルに『誤解』は属する。カミュはこの作品で「現代の悲劇」を書こうとした。悲劇の世界にいる人間とその反抗。彼自身の説明によると、台詞の言葉は、悲劇的であるために書き言葉の性質を持つと同時に、芝居として成立するような自然さも持ち合わせていなくてはならない。自然な感じで始まり、幕を追うごとに「神話の高み」へ至る言語と劇的效果。これを日本語にするのはなかなか大変そうではある。

閉塞、息苦しさ、本来いるべきではない所へ追放されている感覚。それを見つめ、反抗するために、今、日本でこの作品を上演する意義は大きい。稲葉さんと台本をしっかりと作り上げていきたい。

**演出家からのメッセージ****稲葉賀恵**

「誤解」はカミュが1942年から43年にかけて執筆した2作品目の戯曲です。

カミュは本作を「暗い芝居」ではあるが「絶望的な芝居」ではないと述べました。私はこの作品を一読した時、「絶望的な運命」に対して抗おうとする登場人物達の力強いエネルギーを感じました。

所謂「悲劇」と分類されるこの作品にはその他の作品を凌駕するエネルギーのぶつかり合いがあります。

「兄妹間の争い」「不条理な運命に対する抵抗」「殺人、自死に対する葛藤」「祖国からの逃亡と異国への憧憬」、一つ一つの素材がぶつかり合う力はなぜこんなにも激しいのか。

それは、どちらか片方が善い、悪いという訳ではなく、互いに正しく筋道が通っているからです。そして互いの側から見ると善であり同時に悪でもある。

今日、白か黒か二極化し線引きすることの安易さ、恐ろしさを感じざるを得ない社会の中で、善悪というものは言わずもがな表裏一体であること、そしてそれらが互いに衝突することで起こる混沌とした、しかし大きなエネルギーの塊を演劇という表現を介して想像してみることが、本作を上演することの大きな意味だと私は思っています。

## スタッフ プロフィール

### アルベール・カミュ

Albert CAMUS

フランス領アルジェリア出身の小説家、劇作家、哲学者、思想家。第二次世界大戦中に発表した小説『異邦人』やエッセイ『シーシュポスの神話』等で注目を集める。戦後はジャーナリストとして活躍すると共に、劇作家としても『カリギュラ』『誤解』などの戯曲を発表。

1957年、43歳の時に戦後最年少でノーベル文学賞を受賞。

主な作品に小説『ペスト』『転落』『追放と王国』、戯曲『戒厳令』『正義の人びと』、エッセイ・評論『キリスト教形而上学とネオプラトニズム』『反抗的人間』などがある。

### 岩切正一郎

IWAKIRI Shoichiro

1959年、宮崎県生まれ。東大文学部（フランス文学専修）卒、同大学院博士課程満期退学。国際基督教大学教授。戯曲翻訳家、詩人。

音楽劇・戯曲翻訳として、ラミュストラヴィンスキー『兵士の物語』（演出・山田和也）、アヌイ『ひばり』、カミュ『カリギュラ』（共に演出・蜷川幸雄）、ラヒミルモワヌ『悲しみを聴く石』（演出・上村聡史）、ラシーヌ『フェードル』（演出・栗山民也）、シュミット『謎の変奏曲』（演出・森新太郎）、アルカンブラッサール『この熱き私の激情』（演出・マリー：ブラッサール）など。第15回湯浅芳子賞（翻訳・脚色部門）受賞。

新国立劇場ではベケット『ゴドーを待ちながら』、サルトル『アルトナの幽閉者』、ジロドゥ『トロイ戦争は起こらない』の翻訳を手掛けている。



### 稲葉賀恵

INABA Kae

日本大学芸術学部映画学科監督コース卒。2008年文学座附属演劇研究所48期生として入所。

2013年座員に昇格。座員に昇格した13年、文学座アトリエの会『十字軍』にて文学座初演出。その後、鶴山 仁、高瀬久男、上村聡史、青木 豪などの演出助手を務める。

その他の演出作品に、日生劇場プロテティ公演『マリアナピネーダ』、文学座アトリエの会『野鴨』、シアターラムネクストジェネレーション『解体されゆくアントニンレーモンド建築旧体育館の話』、東映ビデオ『野良女』、オフィス3〇〇『川を渡る夏』、豊橋芸術劇場PLAT『ガンボ』など。



2018年11月

# 誰もいない国

No Man's Land  
小劇場

●会員先行販売期間：2018年8/26(日)～9/5(水)

●一般発売日：2018年9/9(日)

作：ハロルド・ピンター

Written by Harold PINTER

翻訳：喜志哲雄

Translated by KISHI Tetsuo

演出：寺十 吾

Directed by JITSUNASHI Satoru

出演：柄本 明 石倉三郎 有蘭芳記 平埜生成

Cast : EMOTO Akira, ISHIKURA Saburo, ARIZONO Yoshiki, HIRANO Kinari

## 作品

新シーズン2作品目は、ノーベル文学賞を受賞した20世紀を代表する劇作家ハロルド・ピンターの『誰もいない国』が登場します。本作は1975年ロンドン、ナショナル・シアターでピーター・ホール演出により初演されました。

個人のアイデンティティの危うさや、社会の欺瞞、あるいは人間関係の不安定さを、鋭く切り詰めた言葉で、時に過激に表現し、登場人物のキャラクターを崩壊寸前まで突き詰めたピンターの作品群は、21世紀になった今でも現代人の心に深く突き刺さります。本作もまた、一室のなかで繰り広げられる会話を通して、パワーバランスの変化や、関係の曖昧さ、確信できない過去が浮かんで消え、果たして会話の内容が真実なのか一種のゲームを演じているのか、虚実のわからなさを楽しむピンターの世界が繰り広げられます。

今回の演出には寺十吾が新国立劇場に初登場、ピンター研究の第一人者喜志哲雄とともに、上演台本を作成し、緻密な演出でピンターの世界を描きます。

## 物語

ロンドン北西部にある屋敷の大きな一室。ある夏の夜、屋敷の主人ハーストとスプーナーが酒を飲んでいる。詩人のスプーナーは、酒場で同席した作家ハーストについて家まで来たようだ。酒が進むにつれ、べらべらと自らをアピールするスプーナーに対し、寡黙なハースト。スプーナーは、共通の話題を見出そうとハーストに話をふるが、もはやそれが現実なのか虚構の話なのかわからない。そこへ、ハーストの同居人の男たちが現れて・・・。

## 演出家からのメッセージ

## 寺十 吾

「言葉」が、ちゃんと気持ちを表せるもの、本当の事を直接言い表せるものとして扱われ妄信されるようになった昨今、セリフとは何であるかと改めて考えみたら、やはりそんな筈は無い訳で、実は思ってる事と言ってる事はズレまくり、やってる事と言ってる事がまるで違い、嘘と本当がごちゃ混ぜになり、しまいには何が言いたいやらさっぱりわからんというのが言葉の本来の性質で、この性質を活かした結果、解説不能な戯曲は世界中にあります。

そこが面白い。言葉がままならないからこそ面白い。

真実とか本当に言いたい事なんて如何わしいものは、やはり如何わしい言葉を羅列して羅列してやっと、ようやくボンヤリそれらしいものが気配を見せるだけで、いうなればそれらは言葉で言い表したのでは無く、言葉という鉤の棒で水中を引っ掻き回した果てに、やがて水面に浮かんでくる水底の泥に混じった血のようなものだと考えます。

ハロルド・ピンターの「誰もいない国」では、その果てにどんな面白い模様が浮かぶかを楽しみにしながら水面に漕ぎだしたいと思っています。

## スタッフ プロフィール

## ハロルド・ピンター

Harold PINTER

1930年、ロンドン生まれ。俳優としてキャリアをスタートし、57年、処女戯曲『部屋』で劇作家に転身。同年に『誕生日パーティ』『料理昇降機』を発表後、『管理人』(59)で注目を集め、その後、『帰郷』(64)などの作品で地位を確立。追いつめられた人をめぐる不条理を、恐怖とユーモアのうちに描く独特の作風は、その名を冠してピンタレスクと呼ばれる。初期の心理的リアリズムを指向する作風から、『風景』(67)などの詩的な作品を経て、とりわけ『景気づけに一杯』(84)以降は政治色の強い作品を次々と発表。ラジオ・テレビドラマ、映画の世界でも活躍し、『フランス軍中尉の女』(81)『スルース』(2007)などの映画脚本で知られる。人権活動家としても著名で、イラク戦争開戦時にも積極的な反戦活動を展開した。他の代表戯曲に『誰もいない国』(74)『灰から灰へ』(96)などがある。05年ノーベル文学賞受賞。08年12月24日、78歳で逝去。

## 寺十 吾

JITSUNASHI Satoru

1964年、京都府出身。92年、劇団「tsumazuki no ishi」結成、主宰として演出・出演をこなす。俳優・演出家として、幅広く活躍中。主な演出作品に、日本文学シアターシリーズ『黒塚家の娘』『遊侠 沓掛時次郎』他、『あたま山心中〜散ル、散ル、満チル〜』『奇想の前提』『悪魔を汚せ』『関数ドミノ』など。新国立劇場初登場となる。





2018年12月  
＜新訳上演＞  
New Translation

# スカイライト

Skylight

小劇場

●会員先行販売期間：2018年9/30(日)～10/9(火)

●一般発売日：2018年10/13(土)

作：デイヴィッド・ヘア

Written by David HARE

翻訳：浦辺千鶴

Translated by URABE Chizuru

演出：小川絵梨子

Directed by OGAWA Eriko

出演：蒼井 優 ほか

Cast: AOI Yu and others

## 作品

小川絵梨子が芸術監督就任後初の演出作品として取り上げるのは、演劇の原点とも言える“対話”の力への信頼に基づいた秀作、デイヴィッド・ヘアの『スカイライト』。1995年に初演されて以降、様々な演出家の手により幾度となく上演が重ねられてきました。かつて不倫関係にあった二人の男女のダイアログは、常に綱渡りのような緊張を孕み、ちょっとした一言で均衡が大きく揺らいでいく様は、まさにドラマティック。登場人物はわずか三人、しかも舞台にいるのは常に二人だけというミニマムな人間関係を、戯曲の機微を細やかに掬い取る手腕が高い評価を得る小川絵梨子が、どのように演出するかが見どころです。

## 物語

ロンドン中心部から離れた質素なアパートに住むキラの元に、かつての不倫相手の息子であるエドワードがやってくる。妻アリスを亡くして以来、不安定なままの父親トムを助けてほしいと言い残し、彼は去る。

同じ日の夜、期せずしてトムもまたキラの元を訪れる。三年ほど前、不倫関係が明るみになった日以来、初めて再会した二人は、夜更けまでこれまでのことを語り合う。お互いへのいまだ消えぬ想いと、解けない不信感、共有する罪の意識の間で大きく揺れ動く二人の会話は、やがてそれぞれの価値観の違いへと触れて行く。相手の急所を射抜く言葉を知っている二人の駆け引きがたどり着く先は……。

**翻訳家からのメッセージ****浦辺千鶴**

優れた作品には、いつの時代のどこの国を扱っていても、現代の観客の心を揺さぶる普遍性がある。本作で描かれているのは、1990年代のロンドンを舞台に、かつて恋愛関係にあった男女の数時間だ。ただしそこはデイヴィッド・ヘア作品らしく、プライベートな個人の感情を滑らかに社会の現実へと繋いで見せる。愛をめぐる男女の感覚の違いに「あるある」と思っているうちに、いつしか二人の間の溝となっている社会の問題についても思いを巡らせているのだ。

1995年初演の「スカイライト」は、当時のイギリス社会の現実を踏まえて書かれているにも関わらず、2018年の世界が透けて見えてくる。作品の背景に大きく関わっているのは「階級」だが、階級により分断されたイギリスのみならず、トランプ政権下のアメリカの分断や移民問題に揺れるヨーロッパの分断など、「分断」がキーワードとなっている今の世界の姿が重なる。

劇中では気持ちのすれ違いを表すものとして登場するスカイライトだが、窓というものは内（個人）と外（社会）の境目という存在でもある。観客がその窓の外側に果たしてどのような景色を描くのか、作家は一人一人に委ねているのかもしれない。

**演出家からのメッセージ****小川絵梨子**

この作品は「男女の関係」という最も小さな枠組みを描きながらも、「社会」という更にもう一つ大きな枠組みも描き出しています。ある一定の安定した社会を保つことは大事である一方、どうしてもその安定から漏れてしまう人々がいる。わかりやすい悪人などおらず、勧善懲悪ではない今日の社会でどうしても生まれてきてしまう歪みがある。物語は、それと必死に向き合う一人の女性と、社会をリードする立場にある一人の男性を軸に進んでいきます。共通にあるのはお互いへの思いと罪悪感だけ。二人の会話はまるでバランスを取ろうとしても取れないシーソーのようです。イギリスで書かれた本作ですが、今日の日本においても痛いほどに共感できる戯曲だと思います。二人の不安定な心の揺れを生々しく描きたいと思っています。

## スタッフ プロフィール

## デイヴィッド・ヘア

David HARE

1947年イギリス、サセックス生まれ。トム・ストッパード、ハロルド・ピンター、ピーター・シェイファーらと並ぶイギリス現代演劇を代表する劇作家であり、演出・脚本・映画監督も手掛ける。ケンブリッジ大学で学び、68年ポータブル・シアター・カンパニー、74年ジョイント・ストックの劇団創設に参加。70～71年ロイヤル・コート・シアターの文芸部長、84～87年ナショナル・シアターのアソシエイト・ディレクターを務める。映画でも活躍しており、監督作品として、85年『ウェザビー』がベルリン国際映画祭金熊賞受賞。

主な戯曲として『スラッグ』（70年イブニング・スタンダード新人作家賞）、『プラウダ』（85年イブニング・スタンダード・ドラマ賞最優秀演劇賞）、『レイジング・デモン』（90年オリヴィエ賞最優秀作品賞）、『スカイライト』（95年オリヴィエ賞最優秀作品賞）、『ブルー・ルーム』『軌道』『モレデート・ソプラノ』『レッドバーン』など。

## 浦辺千鶴

URABE Chizuru

上智短期大学英語学科、東京女子大学文理学部英米文学科卒業。小田島恒志、山内あゆ子両氏に師事。これまでに東急文化村、パソナ、新国立劇場などからの依頼で多くの作品の下訳を手掛けている。2009年、新国立劇場『シュート・ザ・クロウ』（小田島恒志氏との共訳）で本格的に翻訳家としてデビュー後、新国立劇場において、『星ノ数ホド』、『パッション』、『君が人生の時』を翻訳。『星ノ数ホド』、俳優座劇場『月の獣』の翻訳に対し、第8回小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞。



## 小川絵梨子

OGAWA Eriko

※2ページを参照



# かもめ

The Seagull

小劇場

●会員先行販売期間：2019年2/3(日)～2/12(火)

●一般発売日：2019年2/16(土)

作：アントン・チェーホフ

Written by Anton CHEKHOV

英語台本：トム・ストップパード

Adaptation by Sir Tom STOPPARD

翻訳：小川絵梨子

Translated by OGAWA Eriko

演出：鈴木裕美

Directed by SUZUKI Yumi

## 企画意図

毎シーズンに一本、全キャストをオーデションで選考、上演する企画の第一弾として、チェーホフ不朽の名作『かもめ』を上演します。作り手が新しい俳優と、俳優が新しい演出家と、劇場が新しい作り手たちと出会い、作品を立ち上げていく、小川絵梨子が芸術監督としての柱の一つとして掲げる企画です。

演出には、かねてよりオーデション企画に賛同していた鈴木裕美を迎え、2018年1月12日より公募を開始、2月上旬から3月中旬まで6週間をかけてオーデションを行います。

## 物語

ソーリン家の湖畔の領地。女優のアルカージナと愛人の小説家トリゴーリンが滞在している。アルカージナの息子コースチャは恋人のニーナを主役にした芝居を上演するが、アルカージナは芝居の趣向を揶揄するばかり。コースチャは憤慨しながら席を外すが、アルカージナは、ぜひとも女優になるべきだ、とニーナをトリゴーリンに引き合わせる。

ニーナは、トリゴーリンに名声への憧れを語り、徐々にトリゴーリンに惹かれていく。コースチャは自殺未遂を引き起こし、さらにはトリゴーリンに決闘を申し込むが、取り合っすらもらえない。モスクワへ戻ろうとするトリゴーリンに、ニーナは自分もモスクワに出て、女優になる決心をしたと告げ、二人は長いキスを交わすのだった。

2年後、コースチャは気鋭の作家として注目を集めるようになっている一方で、ニーナはトリゴーリンと一緒になったものの、やがて捨てられ、女優としても芽が出ず、今は地方を巡業している。

コースチャがひとり仕事しているところへ、ニーナが現れる。引き留めるコースチャを振り切り、再び出て行くニーナ。

絶望のなか、部屋の外へと出て行くコースチャ。銃声が響く……。

**演出家からのメッセージ****鈴木裕美**

実はフルキャストオーディションで芝居を作りたいと、数年前から思っていました。いくつかの劇場の方に話に行き、新国立劇場のプロデューサーさんにもご相談しておりました。それで、です！この度、新しく芸術監督に就任される小川絵梨子さんが、やはりオーディションで芝居を作る企画を進めたいとお考えになり、プロデューサーさんが「それなら、鈴木がそんなことやりたいって言った」と思い出して下さって、今回があります。なんというシンクロシティ！私としては本当にありがたく嬉しい限りです。

演目は、本屋さんで比較的簡単に手に入り、登場人物の年代に幅があるものが良いと思い、以前から生涯で1回は演出したいと思っていたチェーホフの「かもめ」をご提案しました。

オーディションには少なく見積もっても6週間はかかると思います。稽古一本分の期間です。どんな俳優さんに出会えるのか、心から楽しみでなりません。

**スタッフ プロフィール****アントン・チェーホフ**

Anton CHEKHOV

ロシアの劇作家、小説家。モスクワ大学医学部を卒業、医師として働く。生活費を稼ぐため、短編ユーモア小説を書くが、その後文学的作品を執筆するようになる。1881年から戯曲の執筆を開始、87年に長編『イワノフ』初演、89年の再演が高評を博し、96年初演の『かもめ』以降、99年『ワーニャ伯父さん』、1901年『三人姉妹』、04年『桜の園』を執筆、劇作家としての名声を確立した。

**トム・ストップパード**

Sir Tom STOPPARD

1937年、チェコスロバキアのユダヤ系の家庭に生まれる。第二次世界大戦中、ナチスから逃れ、シンガポール、インドと移り住む。46年、イギリスに移住。17歳でジャーナリストとなり、報道記事、映画・演劇の批評を担当。また、ラジオドラマ等の脚本、戯曲を執筆する。66年、エジンバラ・フリンジ・フェスティバルで上演した『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』が大評判を呼び、翌67年、ロンドン・オールド・ヴィック劇場にて上演。同年、ブロードウェイにも進出し、トニー賞ベスト作品賞をはじめ、数々の賞を独占した。その後も知的ユーモアとウィットに富んだ数多くの作品を書き、イギリス演劇界にその地位を確立した。また『未来世紀ブラジル』や『太陽の帝国』など、映画の脚本も多数手掛け、幅広い方面で高い評価を得ている。90年『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』を映画化、自ら監督、ヴェネツィア国際映画祭金獅子賞を、99年『恋におちたシェイクスピア』でアカデミー賞オリジナル脚本賞を受賞している。そのほか主な戯曲に『ジャンパーズ』『茶番劇』『ザ・リアル・シング』『アルカディア』『コースト・オブ・ユートピア』『ロックンロール』『ハード・プロブレム』など。97年、英国王室よりナイト爵位を叙せられた。

## スタッフ プロフィール

## 小川絵梨子

OGAWA Eriko

※2ページを参照



## 鈴木裕美

SUZUKI Yumi

1982年、日本女子大学在学中に「自転車キンクリート」を結成。「自転車キンクリートSTORE」を含むほとんどの公演に関わり、『OUT』『第17捕虜収容所』『法王庁の避妊法』『富士見町アパートメント』などを演出。現在は小劇場から大劇場、ストレートプレイ、ミュージカル、ダンスと多種多様なジャンルで精力的に活動中。2011年より個人ユニット「鈴木製作所」を立ち上げ、『ノミコムオンナ』を製作。最近の主な演出作品に『夜中に犬に起こった奇妙な事件』『アリス・イン・ワンダーランド』『サンセット大通り』『パパのデモクラシー』『スコット&ゼルダ』『フロッグとトード gama君とかえる君の春夏秋冬』『花より男子』『ブラック メリーポピンズ』『マクベス』『韓国版 花より男子』『蜘蛛女のキス』などがある。第35回紀伊國屋演劇賞個人賞、第8回・15回・18回読売演劇大賞優秀演出家賞、第10回仙田是也賞、第33回菊田一夫演劇賞、07年ミュージカル・ベストテン演出家賞、第61回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。新国立劇場では、『たとえば野に咲く花のように』『エネミー』『ウィンズロウ・ボーイ』を演出。



©栗原 論

少年王者館

2019年5月  
＜新作＞  
A New Play

# 1001 (イチゼロゼロイチ) (仮題)

1001 (ICHI-ZERO-ZERO-ICHI) (provisional)  
小劇場

●会員先行販売期間: 2019年2/24(日)~3/12(火)  
●一般発売日: 2019年3/16(土)

作・演出: 天野天街

Written& Directed by AMANO Tengai

## 作品

我が国の演劇界において、唯一無二の存在感を放つ集団のひとつ、少年王者館。懐かしく、そして一抹の怖さが漂う舞台は観る人の五感を揺さぶり、刺激し、高揚させずにはおきません。

名古屋を本拠地にした、天野天街率いる集団が、新国立劇場に初登場します。

## 物語

あおぞらの いろをきき うつくしい えのような おとをみて  
かなしさも きまぐれな くるしさも けとぼして ころがして  
さようなら しずけさと すずしさが せめぎあい そらをこえ  
たちのぼる ちのはてで つかまえて てのひらで とびはねて  
なつかしい においして ぬれながら ねころんで のんびりと  
はかなげに ひらひらと ふるえては へっていく ほしひかり  
まどろんで みあげては むせかえり めをとじて ものうげに  
やみのなか ゆめのよに よるがくる。  
らいめいが りゆうなく るりいろに れんけつし ろぼっとの  
わたくしに をとずれる。

作・演出家からのメッセージ

天野天街

光、空気振動、空間、時間、肉体、言語を、ずらしたり、ぶらしたり、揺らしたり、延ばしたり、縮めたり、重ねたり、逆立ちさせて、かき混ぜて、歪ませて、ネジ曲げて、かつて見たことのない、新花鳥風月演劇をつくりたいです。

スタッフ プロフィール

天野天街

AMANO Tengai

少年王者館主宰、1960年生まれ、愛知県一宮市出身。82年に劇団少年王者（85年に少年王者館と改称）を旗揚げ、同劇団の主な公演で作・演出を務めるほか、92年には澁澤龍彦の遺作『高丘親王航海記』を野外劇化して各界の注目を集める。

愛知県文化振興事業団プロデュース公演『大熊猫中毒』演出（作：半澤寧子）、人形劇団むすび座公演『夜叉ヶ池』脚本・演出、流山児★事務所公演『SMOKE～LONG VERSION～』演出（作・音楽：ケラリーノ・サンドロヴィッチ）、『田園に死す』演出（原案：寺山修司）、『西遊記』脚本・演出、など外部団体での演劇活動の他、小熊ヒデジ・寺十吾によるKUDAN Project公演では作・演出を担当し、『劇終/OSHIMAI～くだんの件』『真夜中の弥次さん喜多さん』（原作：しりあがり寿）は中国・フィリピン・マレーシアなど海外でも上演している。

2013年にはパルコ劇場プロデュース『レミング～世界の涯までつれてって～』（演出：松本雄吉）にて上演台本を担当、15年再演時には一部演出を担当。

演劇以外の分野においても、ポスターデザイン・装丁・イラスト・エッセイ・短編映画監督など多方面に渡る活動を行っている。





2019年6月  
＜日本初演＞  
Japan Premiere

# オ레스ティア

Oresteia

中劇場

●会員先行販売期間：2019年3/30(土)～4/10(水)

●一般発売日：2019年4/14(日)

原作：アイスキュロス

Original by Aeschylus

作：ロバート・アイク

Adaptation by Robert ICKE

翻訳：平川大作

Translated by HIRAKAWA Daisaku

演出：上村聡史

Directed by KAMIMURA Satoshi

## 作品

2017/2018シーズン『1984』に続き、世界が注目のイギリスの作家、ロバート・アイクによる『オ레스ティア』を日本初演します。この作品は、アイスキュロス作の「オレステス」の悲劇を中心とした『オレスティア』三部作を軸に、その他のギリシャ悲劇も盛り込みながらアイクが再構成した意欲作です。演出の上村聡史は、「オレステス」も含む10本のギリシャ悲劇を集大成した戯曲『グリークス』（ジョン・バートン他編）を通し上演するなど、ギリシャ悲劇にも精通し、かつ、古典であろうと常に批評精神と現代的な視点で物語を紡ぐ卓越した演出力が評価されています。イギリスと日本の若き才能が火花を散らす、まさに世界が注目する舞台です。

## 物語

ドクターがオレステスに小さい頃の記憶を尋ねている。「二羽の鷺と一匹の野ウサギ」。野ウサギのお腹の中には子ウサギがいる。

オレステスの父アガメムノンが戦争の勝利のために「子殺し」の神託を実行し、幼い娘イピゲネイアは生贄として殺害された。そして凱旋の日、夫の帰りを盛大に迎えたクリュタイメストラは、その夜自らの手で娘の仇である夫を殺す。

トラウマのために混乱するオレステスに、ドクターは真実を見るよう促す。

ついにオレステスは父の仇である母クリュタイメストラを殺害。その罪をもって裁判にかけられる。

## 翻訳家からのメッセージ

## 平川大作

『アガ멤ノン』、『供養する女たち』、『慈しみの女神たち』からなるアイスキュロスのオレスティア三部作が上演されたのは紀元前458年だとか。世界演劇史上最古の時代の劇作家は当時67歳、この世を去る2年前ですから、まさに晩年の集大成です。

泥沼化したトロイ戦争を終結させるには娘イピゲネイアを生贄に捧げるべし、という過酷な神託を受けて、ギリシア軍の総大将アガ멤ノンは苦悩します。かけがえのない代償を支払って得た勝利の凱旋を赤い絨毯で迎えた妻にしてイピゲネイアの母クリュタイメストラは、密かに復讐心を燃え上がらせませす。父を失った息子オレステスは正義を貫くために、身をやつして妹エレクトラと再会し、母に刀を向けて・・・

アイスキュロスが材を取ったのは「アトレウス家の悲劇」として知られる一族の憎悪と復讐の連鎖であり、その末端に生を受けたオレステスの運命でした。

あまたの悲劇的な物語の主人公はいずれも身の毛もよだつ怖ろしい宿命を背負わされているものですが、オレステスほど過酷で絶望的な生を引き受けねばならない人物もいません。演劇の歴史の始原において、すでにしてヒトの極点が描かれていたと言うべきでしょう。その運命の重圧に耐えながら、オレステスは神々の裁きを経て生き抜きます。裁きであれ自決であれ死という選択肢がそこにあることに注目したいと思います。アイスキュロスが描こうとしたのは、極限的な条件を課せられてもなお、呪わしい負の連鎖から生の肯定へと至るオレステスという人物の「受苦に耐えて生き抜く」姿だったのかもしれませんが。

少なくとも、今回上演する21世紀イギリスの劇作家兼演出家ロバート・アイクは新翻案に新しい発想の趣向を導入して、オレステスを明確に主人公の位置に据えています（たとえばアイスキュロスの『アガ멤ノン』にオレステスは登場しませんが、アイクは劇作家ならではの想像力を駆使して、そこにいたであろう幼きオレステスを描きます）。あたかも大きな身振りで一気に振り返るかのよう三部作を一篇の戯曲『オレスティア』（2015）に凝縮し、私たち人間という存在の古層に探査の光が当てられる物語。オレステスによって語られる、オレステスのための、オレステスの物語だから「オレスティア」。2400年以上発火し続けてきた危険な物語が、神と人、個人と家族、世界と内面、記憶と現在の交点で、ギリシアとロンドンと東京が重なる場所で、古くも新しい火花を激しく放ちます。

**演出家からのメッセージ**

**上村聡史**

---

“オレステスは、なぜ母を殺さなければならなかったのだろうか？”

戦争から生じた憎しみを、家族の血塗られた惨劇と青年の悲痛を軸に展開するこのギリシャ悲劇は、いつの時代でも、たくさんの国で上演され、または、小説・映画・オペラ・絵画などのモチーフになり、人間生活の支柱となってきた。

今回は、『アウリスのイピゲネイア』も挿入された、アトレウス家の惨劇をサスペンスタッチかつスピード感に溢れた脚本で上演するわけだが、これまで多くの物語にみる戦争は、個人を苦しめる壮大な運命そのものであり、殺人は、個人が他者へ向けた愛の裏返しとして描かれることがほとんどであった。だが、今日では、愛から生まれた憎しみは、氾濫する情報を吸収し肥大化、やがて、復讐の連鎖となり、世界を包む。そんな時代に、私たちは“赦し”を見出すことはできるのだろうか。

この大きな問題を前に、今回の上演では、今を生きる私たちの刹那的な在り様を、このギリシャ悲劇に重ねてみたいと思う。そして、神が登場する“赦し”の場『慈しみの女神たち』では、現代のオレステスでもあり、私たちを写したかのような“神”を表出させたい。

## スタッフ プロフィール

## アイスキュロス

Aeschylus

紀元前525年頃生~456年頃没。ソフォクレス、エウリピデスと並び、古代アテナイの三大悲劇詩人の一人。20代より作劇を始め、生涯に90もの作品を世に生み出した、ギリシア悲劇隆盛の立役者である。様式面でも改革を行い、それまでコロスと俳優1人だけの問答形式で上演されていた当時、俳優を2人に増やすことで、言葉のやりとりを可能にした。

『オレスティア』は『アガ멤ノン』『供養する女たち』『慈悲の女神たち』からなる三部作で、アイスキュロスの代表作である。

## ロバート・アイク

Robert ICKE

イギリスの劇作家・演出家。現在、アルメイダ劇場のアソシエイト・ディレクター。

『1984』で、2013年リヴァプール・アート・アワード最優秀演出家賞、2014UKシアター・アワード最優秀演出家賞を受賞、同作は2014年オリヴィエ賞、優秀新作戯曲賞にノミネートもされている。また『オレスティア』で2015年、英国演劇批評家賞、イブニング・スタンダード演劇賞最優秀演出家賞、2016年オリヴィエ賞最優秀演出家賞を受賞。

## 平川大作

HIRAKAWA Daisaku

九州大学文学部、大阪大学大学院演劇専攻で学び、「ひょうご舞台芸術」に調査研究員として参加。2000年より大手前大学に勤務。メディア・芸術学部教授。11年『モジョ ミキボー』で第3回小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞。そのほかの主な翻訳作品に『扉を開けて、ミスター・グリーン』『アテンブツ・オン・ハー・ライフ』など。新国立劇場では『コペンハーゲン』『OPUS / 作品』『バグダッド動物園のベンガルタイガー』『フリック』『1984』の翻訳を手掛けている。



## 上村聡史

KAMIMURA Satoshi

1979年生まれ。2001年文学座付属演劇研究所に入所。06年座員に昇格、09年より文化庁新進芸術家海外留学制度により1年間イギリス・ドイツに留学。14年に新国立劇場で上演された『アルトナの幽閉者』をはじめ他の演出作品で第17回千田是也賞を受賞。また演出を手掛けた『炎アンサンディ』が第69回文化庁芸術祭賞大賞、第22回読売演劇大賞最優秀演出家賞を受賞。主な演出作品に『信じる機械』『ボビー・フィッシャーはパサデナに住んでいる』『当世極楽気質』『悲しみを聴く石』『対岸の永遠』『弁明』『中橋公館』『冒した者』『岸 リトラル』など。新国立劇場では他に『城塞』（17年）を演出し、好評を博した。



---

2019年7月  
＜新作＞  
A New Play

# 野木萌葱 新作

A New Play by NOGI Moegi

小劇場

●会員先行販売期間：2019年4/28(日)～5/7(火)

●一般発売日：2019年5/11(土)

---

作：野木萌葱

Written by NOGI Moegi

演出：小川絵梨子

Directed by OGAWA Eriko

## 作品

シーズン最後を飾るのは、新世代の社会派劇作家として大きな注目を浴びている野木萌葱による新作です。

史実や実際の事件から登場人物を造形し、緊張感のある会話劇を展開する野木と、新シーズンから新国立劇場の芸術監督に就任する小川絵梨子。

初めてタッグを組む二人が、どのような世界を描き出すのか、どうぞご期待ください。

**作者からのメッセージ**

**野木萌葱**

惚気話をしようと思います。

私はよく劇場に一目惚れするのですが、そうなった時は何が何でも其処で上演しようと思いを弄します。その劇場が持つ空間を手に入れたくなるのですね。

さて、新国立劇場小劇場です。初めて足を踏み入れた時のことははっきりと覚えています。

「四角いな」

この小劇場にはほぼ直線しかありません。この潔さ。この美しさ。撃ち抜かれました。まさに一目惚れです。

ですが相手は新国立劇場です。おいそれと手は出せません。名前からして気難しそうではありませんか。

もしかしたら上演しようと思えば上演できたのかもしれませんが。その一歩を踏み出せなかったのは、当時の私にあの空間と対峙するだけの狂気が足りなかった所為でしょう。

と、十五年以上も悶々として一目惚れも忘れ掛けていた頃でした。

「やってみます？」

なんと逆ナンです。怖気づきました。しかし同時に、私の飼っている狂気があの時よりも少しだけ力を増して頭をもたげたことにも気がつきました。

さあ、口説くのは此処からです。気難しそうなあの姿の下に、どんな艶やかな貌を隠しているのか。

存分に戯れてみようと思います。

**演出家からのメッセージ**

**小川絵梨子**

この度、新国立劇場に初めて野木萌葱さんをお迎えすることができました。劇場のために新作を書き下ろしてくださることになり、大変にありがたく嬉しく思っています。私は翻訳戯曲を演出することが多いのですが、翻訳劇ではどうしても取捨選択しなければならないことが少なからず出てきてしまいます。そのため、日本の戯曲でしかも同時代を生きる同世代の作家の戯曲を演出することへの憧れがありました。その中、今回こうして野木さんと一緒にできるのは幸せの一言に尽きます。私は、てらいのない、正直で、まっすぐな野木さんの戯曲がとても好きです。それでいて物語として、人間ドラマとして本当に面白いのです。野木さんの戯曲が持つ、凛とした気高さを損なわないよう、私も丁寧に正直に演出したいと思っています。

スタッフ プロフィール

野木萌葱

NOGI Moegi

日本大学芸術学部 演劇学科劇作コース（第一期生）卒業。

中学2年の時に観た映画をきっかけに劇作に目覚める。高校進学後も演劇部にて劇作・演出を担当し、そのまま日大へ進学。大学在学中の1998年「パラドックス定数」をユニットとして旗揚げ。2007年の『東京裁判』初演時に劇団化する。史実や実際の事件を枠組みとして用い、大胆な想像力で物語を創造。濃密な人間関係より生まれる緊張感のある会話劇を得意とする。

2016年ウォーキングスタッフプロデュースにて上演された「三億円事件」が、第24回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞した。



小川絵梨子

OGAWA Eriko

※2ページを参照



# こつこつプロジェクト —ディベロップメント—

2019年3月

## リーディング公演

### スペインの芝居

作:ヤスミナ・レザ

演出:大澤 遊

### マクベス

作:ウィリアム・シェイクスピア

演出:西 悟志

### あーぶくたった、にいたった

作:別役 実

演出:西沢栄治



2019年 3月

# こつこつプロジェクト —ディベロップメント—

## リーディング公演

KOTSU-KOTSU Project —Development—  
小劇場

●会員先行販売期間：2019年 1/6(日)～1/15(火)

●一般発売日：2019年 1/19(土)

### 企画意図

「作り手が、通常の一か月の稽古ではできないことを試し、作り、壊して、また作る場にしたい。」という芸術監督の意を受け、一年間を通して作品を育てていくプロジェクトです。

今シーズンでは、最初的一步としてリーディング公演を披露し、その後定期的な発表を経て、作り手と芸術監督、新国立劇場とが議論とコミュニケーションを重ね、作品を練り上げ、最終的には通常の演目として数年後の本公演を“こつこつ”長期的に目指します。時間に追われない稽古のなかで、作り手の全員が問題意識を共有し、作品への理解を深め、舞台芸術の奥深い豊かさを一人でも多くの観客の方々に伝えられる公演となることを目標とします。

この度はこの主旨に賛同いただいた、新進気鋭の三人の演出家がこの壮大なプロジェクトに参加いたします。

### 参加演出家

■ 大澤 遊

「スペインの芝居」 作：ヤスミナ・レザ

■ 西 悟志

「マクベス」 作：ウィリアム・シェイクスピア

■ 西沢栄治

「あーぶくたった、にいたった」 作：別役 実

参加演出家 プロフィール

## 大澤 遊

OSAWA Yu

日本大学芸術学部演劇学科卒。『三人姉妹』『RED』『太陽』『いま、ここにある武器』『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』など、さまざまな舞台に演出補、演出助手として参加。また自身では演劇ユニット「空っぽ人間<EMPTY PERSONS>」を主宰、すべての作品で構成、演出を手掛けるほか、『ライフ・イン・ザ・シアター』『ザ・シェルター』『ボクの穴、彼の穴。』『カナタの石』などを演出。新国立劇場では『つく、きえる』『星ノ数ホド』『バグダッド動物園のベンガルタイガー』『たとえば野に咲く花のように』に演出助手として参加している。文化庁新進芸術家海外研修制度の研修員としてイギリスのDerby Theatreにて1年間の研修を終え、2017年9月に帰国。



## 西 悟志

NISHI Satoshi

東京大学在学中より劇団を立ち上げ、2002年イヨネスコ『二人で狂う』の演出で利賀演出家コンクール優秀演出家賞を受賞。翌年、受賞作をモスクワで上演。他演出作に、イプセン『人形の家』、ワイルダー『わが町』、小説を劇化した阿部和重原作『ニッポニアニッポン』など。2005年劇団解散。10年間の活動休止を経て、2016年にチョウソンハ・池田有希子の二人芝居『マクベス』を演出。



## 西沢栄治

NISHIZAWA Eiji

2000年、プロデュース形式のJAM SESSIONにて演出を始める。  
ギリシャ劇や歌舞伎などの古典を題材に、演劇ならではの表現で力強い舞台をつくる。  
04年、日本演出家協会主催の若手演出家コンクール2003に出場、最優秀賞を受賞。  
『わが町』『女の平和』『牡丹燈籠』『天保十二年のシェイクスピア』『夏の夜の夢』、喜劇昭和の三部作『キネマと怪人』『阿部定の犬』『ブランキ殺し上海の春』など。



# Drama

## 公演一覧

開場記念公演～2017/2018 シーズン

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
開場記念公演	★紙屋町さくらホテル	井上ひさし		渡辺浩子	1997. 10/22
	[蒲田行進曲完結編]銀ちゃんが逝く	つかこうへい		つかこうへい	1997. 11/13
	夜明け前	原作 島崎藤村	脚色 村山知義 補訂脚本 津上 忠	木村光一	1997. 12/04
	リア王	ウィリアム・シェイクスピア	松岡和子	鶴山 仁	1998. 1/17
1998/ 1999	★虹を渡る女	岩松 了		岩松 了	1998. 5/07
	幽霊はここにいる	安部公房		串田和美	1998. 5/12
	★今宵かぎりは… 1928 超巴里井主義宣言の夜	竹内統一郎		栗山民也	1998. 6/12
	★音楽劇 ブッダ	原作 手塚治虫	脚本 佐藤 信	栗山民也	1998. 9/07
	<b>THE PIT フェスティバル</b>				
	カストリ・エレジー スタインベック「二十日鼠と人間」 より	脚本 鐘下辰男		鐘下辰男	1998. 10/03
	神々の国の首都	坂手洋二		坂手洋二	1998. 10/17
	寿歌	北村 想		北村 想	1998. 10/29
	ディア・ライアー すてきな嘘つき	ジェローム・キルティ	丹野郁弓	宮田慶子	1998. 11/04
	野望と夏草	山崎正和		西川信廣	1998. 12/02
	★新・雨月物語		脚本 鐘下辰男	鶴山 仁	1999. 1/11
	子午線の祀り	木下順二	演出 観世栄夫／内山 鶴 酒井 誠／高瀬精一郎		1999. 2/03
	セツアンの善人	ベルトルト・ブレヒト	松岡和子	串田和美	1999. 5/18
	羅生門	原作 芥川龍之介		構成・演出 渡辺和子	1999. 6/04
棋人 -チーレン-	過 士行	菱沼彬晁	林 兆華	1999. 7/01	
1999/ 2000	キーン 或いは狂気と天才	J.P.サルトル 上演台本 栗山民也／江守 徹	鈴木力衛	栗山民也	1999. 10/04
	美しきものの伝説		宮本 研	木村光一	1999. 11/04
	<b>-森本薫の世界-</b>				
	かくて新年は	森本 薫		宮田慶子	1999. 12/08
	怒濤	森本 薫		マキノノゾミ	2000. 1/11
	華々しき一族	森本 薫		鐘下辰男	2000. 2/09
	★新・地獄変	原作 芥川龍之介	脚本 鐘下辰男	鶴山 仁	2000. 3/23
	なよたけ	加藤道夫		木村光一	2000. 4/11
夜への長い旅路	ユージン・オニール	沼澤治治	栗山民也	2000. 5/11	
2000/ 2001	マクベス	ウィリアム・シェイクスピア	福田恒存翻訳より 潤色 鐘下辰男	鐘下辰男	2000. 9/08
	ブロードウェイ・ミュージカル 太平洋序曲	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジョン・ワイドマン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2000. 10/02
	欲望という名の電車	テネシー・ウィリアムズ	鳴海四郎	栗山民也	2000. 10/20
	<b>シリーズ「時代と記憶」</b>				
	★memorandum メモランダム	構想・構成 ダムタイプ			2000. 11/27
	★母たちの国へ	松田正隆		西川信廣	2001. 1/10
	★ピカドン・キジムナー	坂手洋二		栗山民也	2001. 2/10
	★こんにちは、母さん	永井 愛		永井 愛	2001. 3/12
	★夢の裂け目	井上ひさし		栗山民也	2001. 5/08
	紙屋町さくらホテル	井上ひさし		渡辺浩子／井上ひさし	2001. 4/04
	廣作・桜の森の満開の下	野田秀樹		野田秀樹	2001. 6/01

★=新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2001/ 2002	海外招待作品 Vol.1 太陽劇団 堤防の上の鼓手	エレヌ・シクスー	字幕翻訳 松本伊瑳子	アリアヌ・ムヌーシュキン	2001. 9/07
	コペンハーゲン	マイケル・フレイン	平川大作	鶴山 仁	2001. 10/29
	★美女で野獣	荻野アンナ		宮田慶子	2001. 12/10
	シリーズ チェーホフ・魂の仕事				
	Vol.1 かもめ	アントン・チェーホフ	英訳 マイケル・フレイン 翻訳 小田島雄志	マキノゾミ	2002. 1/11
	Vol.2 くしゃみ/the Sneeze	アントン・チェーホフ	台本 マイケル・フレイン 翻訳 小田島恒志	熊倉一雄	2002. 2/28
	Vol.3 ★「三人姉妹」を追放されし トウゼンバフの物語	岩松 了		岩松 了	2002. 4/01
	Vol.4 ワーニャおじさん 四幕の田園生活劇	アントン・チェーホフ	小野理子	栗山民也	2002. 5/09
	Vol.5 櫻の園	アントン・チェーホフ	潤色 堀越 真(神西清翻訳による)	栗山民也	2002. 6/21
★その河をこえて、五月	平田オリザ/金 明和		李 炳燾/平田オリザ	2002. 6/03	
2002/ 2003	海外招待作品 Vol.2 国際チェーホフ演劇祭 in モスクワ ハムレット	ウィリアム・シェイクスピア		ペーター・シュタイン	2002. 9/07
	ブロードウェイ・ミュージカル 太平洋序曲	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジョン・ワイドマン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2002. 10/11
	★アヤジルシ -誘われて	太田省吾		太田省吾	2002. 11/12
	シリーズ「現在へ、日本の劇」				
	①ピルグリム	鴻上尚史		鴻上尚史	2003. 1/14
	②浮標	三好十郎		栗山民也	2003. 2/19
	③マッチ売りの少女	別役 実		坂手洋二	2003. 4/08
	④サド侯爵夫人	三島由紀夫		鐘下辰男	2003. 5/26
	★涙の谷、銀河の丘	松田正隆		栗山民也	2003. 5/13
	★ゴロヴリョフ家の人々	原作 サルティコフ・シCHEDリン	翻訳 湯浅芳子 脚本 永井 愛	永井 愛	2003. 6/18
2003/ 2004	★nocturne -月下の歩行者	構成 松本雄吉		松本雄吉	2003. 9/08
	★夢の泪	井上ひさし		栗山民也	2003. 10/09
	世阿彌	山崎正和		栗山民也	2003. 11/27
	シリーズ「女と男の風景」				
	①海外招待作品 Vol.3 香港・劇場組合 The Game /ザ・ゲーム	ウジェーヌ・イヨネスコの悲喜劇 『椅子』より 翻案 ジム・チム/ オリヴィア・ヤン	字幕 角田美知代	ジム・チム/ オリヴィア・ヤン	2004. 2/20
	② ★THE OTHER SIDE ／線のむこう側	アリエル・ドーフマン	水谷八也	孫 振策	2004. 4/12
	③★てのひらのこびと		鈴江俊郎	松本祐子	2004. 5/11
	④請願 -静かな叫び-	ブライアン・クラーク	吉原豊司	木村光一	2004. 6/22
	こんにちは、母さん	永井 愛		永井 愛	2004. 3/10
	透明人間の蒸気	野田秀樹		野田秀樹	2004. 3/17
ブロードウェイ・ミュージカル INTO THE WOODS	作詞・作曲 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェイムズ・ラパイン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2004. 6/09	

★=新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2004/ 2005	THE LOFT 小空間からの提案				
	胎内	三好十郎		栗山民也	2004. 10/04
	◎ ★ヒトノカケラ	篠原久美子		宮崎真子	2004. 10/22
	★二人の女兵士の物語	坂手洋二		坂手洋二	2004. 11/08
	喪服の似合うエレクトラ	ユージン・オニール	沼澤治治	栗山民也	2004. 11/16
	★城	原作 フランツ・カフカ	構成 松本 修	松本 修	2005. 1/14
	シリーズ 笑い				
	① 咲く港	菊田一夫		鶴山 仁	2005. 3/14
	② ★コミュニケーションズ 現代劇作家によるコント集	作 綾田俊樹/いとうせいこう/ケラリーノ・サンドロヴィッチ/杉浦久幸 高橋徹郎/竹内 佑/鄭 義信/土田英生/別役 実/ふじきみつ彦/武藤真弓 原作使用 筒井康隆		構成・演出 渡辺えり子	2005. 4/08
	③ ★箱根強羅ホテル	井上ひさし		栗山民也	2005. 5/19
	④ うら騒ぎ ノイズズ・オフ	マイケル・フレイン	小田島恒志	白井 晃	2005. 6/27
その河をこえて、五月	平田オリザ/金 明和		李 炳燾/平田オリザ	2005. 5/13	
海外招待作品 Vol.4 ベルリナー・アンサンブル アルトゥロ・ウイの興隆	ベルトルト・ブレヒト	イヤホンガイド翻訳 新野守広	ハイナー・ミュラー	2005. 6/22	
2005/ 2006	◎ 黒いチューリップ/盲導犬	唐 十郎		中野敦之	2005. 9/27
	◎ 屋上庭園/動員挿話	岸田國士		宮田慶子<屋上庭園> 深津篤史<動員挿話>	2005. 10/31
	母・肝っ玉とその子供たち -三十年戦争年代記	ベルトルト・ブレヒト	谷川道子	栗山民也	2005. 11/28
	ガラスの動物園	テネシー・ウィリアムズ	小田島雄志	イリーナ・ブルック	2006. 2/09
	十二夜	ウィリアム・シェイクスピア	脚本 山崎清介 小田島雄志翻訳による	山崎清介	2006. 3/07
	シリーズ「われわれは、どこへいくのか」				
	① ★カエル	過 士行	菱沼彬晃	鶴山 仁	2006. 4/01
	◎ ② ★マテリアル・ママ		岩松 了	岩松 了	2006. 4/19
	③ ★やわらかい服を着て	永井 愛		永井 愛	2006. 5/22
	④ ★夢の痂	井上ひさし		栗山民也	2006. 6/28
	ブロードウェイ・ミュージカル Into the Woods	作詞・作曲 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェイムズ・ラパイン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	2006. 5/19
2006/ 2007	★アジアの女	長塚圭史		長塚圭史	2006. 9/28
	「劇的な情念をめぐって」-世界の名作より-				
	シラノ・ド・ベルジュラック	原作 エドモン・ロスタン	翻訳 辰野 隆/ 鈴木信太郎	構成・演出 鈴木忠志	2006. 11/02
	イワーノフ/ オイディプス王	原作 アントン・チェーホフ 原作 ソフォクレス	翻訳 池田健太郎 日本語 福田恒存 ドイツ語 ヘルダーリン	構成・演出 鈴木忠志	2006. 11/04
	◎ ★エンジョイ	岡田利規		岡田利規	2006. 12/07
	コペンハーゲン	マイケル・フレイン	平川大作	鶴山 仁	2007. 3/01
	★CLEANSKINS /きれいな肌	シャン・カーン	小田島恒志	栗山民也	2007. 4/18
	★下周村 -花に嵐のたとえもあるさ-	平田オリザ/李 六乙		李 六乙/平田オリザ	2007. 5/15
	夏の夜の夢	ウィリアム・シェイクスピア	松岡和子	ジョン・ケアード	2007. 5/31
	氷屋来たる	ユージン・オニール	沼澤治治	栗山民也	2007. 6/18

★=新作 ◎=THE LOFT 公演

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2007/ 2008	「三つの悲劇」ーギリシャから				
	Vol.1 ★アルゴス坂の白い家 ークリュタイメストラー	川村 毅		鶴山 仁	2007. 9/20
	Vol.2 ★たとえば野に咲く花のように ーアンドロマケー	鄭 義信		鈴木裕美	2007. 10/17
	Vol.3 ★異人の唄 ーアンティゴネー	土田世紀	脚色 鐘下辰男	鐘下辰男	2007. 11/14
	屋上庭園／動員挿話	岸田國士		宮田慶子(屋上庭園) 深津篤史(動員挿話)	2008. 2/26
	★焼肉ドラゴン	鄭 義信		梁 正雄／鄭 義信	2008. 4/17
	オットーと呼ばれる日本人	木下順二		鶴山 仁	2008. 5/27
	シリーズ・同時代				
	Vol.1 ★鳥瞰図 ーちようかんずー	早船 聡		松本祐子	2008. 6/11
	Vol.2 ★混じりあうこと、消えること	前田司郎		白井 晃	2008. 6/27
Vol.3 ★まほろば	蓬萊竜太		栗山民也	2008. 7/14	
2008/ 2009	近代能楽集『綾の鼓』『弱法師』	三島由紀夫		前田司郎(綾の鼓) 深津篤史(弱法師)	2008. 9/25
	山の巨人たち	ルイジ・ピランデルロ	翻訳 田之倉稔	ジョルジュ・ラヴオーダン	2008. 10/23
	舞台は夢 ーイリュージョン・コミックー	ピエール・コルネイユ	翻訳 伊藤 洋	鶴山 仁	2008. 12/03
	シリーズ・同時代【海外編】				
	Vol.1 昔の女	ローラント・シメルプフェニヒ	翻訳 大塚 直	倉持 裕	2009. 3/12
	Vol.2 シュート・ザ・クロウ	オーウェン・マカファーティ	翻訳 浦辺千鶴／ 小田島恒志	田村孝裕	2009. 4/10
	Vol.3 タトゥー	デーア・ローアー	翻訳 三輪玲子	岡田利規	2009. 5/15
	夏の夜の夢	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 松岡和子	ジョン・ケアード	2009. 5/29
★現代能楽集 鶴	坂手洋二		鶴山 仁	2009. 7/02	
2009/ 2010	ヘンリー六世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	
	第一部 百年戦争				2009. 10/27
	第二部 敗北と混乱				2009. 10/28
	第三部 薔薇戦争				2009. 10/29
	象	別役 実		深津篤史	2010. 3/05
	東京裁判三部作	井上ひさし		栗山民也	
	夢の裂け目				2010. 4/04
	夢の泪				2010. 5/06
	夢の痲かさぶた				2010. 6/03
	★エネミイ	蓬萊竜太		鈴木裕美	2010. 7/01
2010/ 2011	[JAPAN MEETS... ー現代劇の系譜をひもとくー]				
	I ヘッダ・ガーブレル	ヘンリック・イブセン	翻訳 アンネ・ランデ・ペータス ／長島 確	宮田慶子	2010. 9/17
	II やけたタン屋根の上の猫	テネシー・ウィリアムズ	翻訳 常田景子	松本祐子	2010. 11/09
	III わが町	ソーントン・ワイルダー	翻訳 水谷八也	宮田慶子	2011. 1/13
	IV ゴドーを待ちながら	サミュエル・ベケット	翻訳 岩切正一郎	森 新太郎	2011. 4/15
	焼肉ドラゴン	鄭 義信	翻訳 川原賢柱	鄭 義信	2011. 2/07
	鳥瞰図 ーちようかんずー	早船 聡		松本祐子	2011. 5/10
	雨	井上ひさし		栗山民也	2011. 6/09
	★おどくみ	青木 豪		宮田慶子	2011. 6/27

★=新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2011/ 2012	<b>【美×劇】</b> —滅びゆくものに託した美意識—				
	I 朱雀家の滅亡	三島由紀夫		宮田慶子	2011. 9/20
	II ★イロアセル	倉持 裕		鶴山 仁	2011. 10/18
	III 天守物語	泉 鏡花		白井 晃	2011. 11/05
	★パーマ屋スマレ	鄭 義信		鄭 義信	2012. 3/05
	まほろば	蓬萊竜太		栗山民也	2012. 4/02
	負傷者 16人 —SIXTEEN WOUNDED—	エリウム・クライエム	翻訳 常田景子	宮田慶子	2012. 4/23
	<b>[JAPAN MEETS…]</b> —現代劇の系譜をひもとく—				
V サロメ	オスカー・ワイルド	翻訳 平野啓一郎	宮本亜門	2012. 5/31	
VI 温室	ハロルド・ピンター	翻訳 喜志哲雄	深津篤史	2012. 6/26	
2012/ 2013	リチャード三世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	2012. 10/03
	<b>[JAPAN MEETS…]</b> —現代劇の系譜をひもとく—				
	VII 七つぼ	アーサー・ミラー	翻訳 水谷八也	宮田慶子	2012. 10/29
	★音のいない世界で	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2012. 12/23
	長い墓標の列	福田善之		宮田慶子	2013. 3/07
	<b>With 一つながる演劇—</b>				
	★ウェールズ編『効率学のススメ』	アラン・ハリス	翻訳 長島 確	ジョン・E・マグラー	2013. 4/09
	★韓国編 アジア温泉	鄭 義信	翻訳 朴 賢淑	孫 振策	2013. 5/10
★ドイツ編 つく、きえる	ローラント・シンメルプフェニヒ	翻訳 大塚 直	宮田慶子	2013. 6/04	
象	別役 実		深津篤史	2013. 7/02	
2013/ 2014	<b>Try・Angle —三人の演出家の視点—</b>				
	Vol.1 OPUS /作品	マイケル・ホリinger	翻訳 平川大作	小川絵梨子	2013. 9/10
	Vol.2 エドワード二世	クリストファー・マーロウ	翻訳 河合祥一郎	森 新太郎	2013. 10/08
	Vol.3 アルトナの幽閉者	ジャン＝ポール・サルトル	翻訳 岩切正一郎	上村聡史	2014. 2/19
	<b>[JAPAN MEETS…]</b> —現代劇の系譜をひもとく—				
	VIII ビグマリオン	ジョージ・バーナード・ショー	翻訳 小田島恒志	宮田慶子	2013. 11/13
	マニラ瑞穂記	秋元松代		栗山民也	2014. 4/03
	テンペスト	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 松岡和子	白井 晃	2014. 5/15
★十九歳のジェイコブ	原作 中上健次	脚本 松井 周	松本雄吉	2014. 6/11	
永遠の瞬間 —Time Stands Still —	ドナルド・マーグリーズ	翻訳 常田景子	宮田慶子	2014. 7/08	
2014/ 2015	<b>[JAPAN MEETS…]</b> —現代劇の系譜をひもとく—				
	IX 三文オペラ	ベルトルト・ブレヒト	翻訳 谷川道子	宮田慶子	2014. 9/10
	<b>二人芝居 —対話するカー—</b>				
	Vol.1 プレス・オブ・ライフ~女の肖像~	デイヴィッド・ヘア	翻訳 鴫澤麻由子	蓬萊竜太	2014. 10/08
	Vol.2 ご臨終	モーリス・パニッチ	翻訳 吉原豊司	ノゾエ征爾	2014. 11/05
	Vol.3 星ノ数ホド	ニック・ペイン	翻訳 浦辺千鶴	小川絵梨子	2014. 12/03
	ウインズロウ・ボーイ	テレンス・ラティガン	翻訳 小川絵梨子	鈴木裕美	2015. 4/09
	<b>[JAPAN MEETS…]</b> —現代劇の系譜をひもとく—				
X 海の夫人	ヘンリック・イブセン	翻訳 アンネ・ランデ・ペータス /長島 確	宮田慶子	2015. 5/13	
東海道四谷怪談	鶴屋南北	上演台本 フジノサツコ	森 新太郎	2015. 6/10	
★かがみのかなたはたなかのなかに	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2015. 7/06	

★=新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2015/ 2016	パッション	作曲・作詞 スティーブ・ソンドハイム 台本 ジェームス・ラパイン	翻訳 浦辺千鶴 訳詞 竜 真知子	宮田慶子	2015. 10/16
	桜の園	アントン・チェーホフ	翻訳 神西 清	鶴山 仁	2015. 11/11
	バグダッド動物園のベンガルタイガー	ラジヴ・ジョセフ	翻訳 平川大作	中津留章仁	2015. 12/08
	<b>鄭義信 三部作</b>				
	焼肉ドラゴン	鄭 義信		鄭 義信	2016. 3/07
	たとえば野に咲く花のように	鄭 義信		鈴木裕美	2016. 4/06
	パーマ屋スマレ	鄭 義信		鄭 義信	2016. 5/17
	あわれ彼女は娼婦	ジョン・フォード	翻訳 小田島雄志	栗山民也	2016. 6/08
★「かがや姫伝説」より月・こうこう風・そうそう	別役 実		宮田慶子	2016. 7/13	
2016/ 2017	フリック	アニー・ベイカー	翻訳 平川大作	マキノノゾミ	2016. 10/13
	ヘンリー四世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	
	第一部 -混沌-				2016. 11/26
	第二部 -戴冠-				2016. 11/27
	<b>かさなる視点 ー日本戯曲のカー-</b>				
	Vol.1 白蟻の巣	三島由紀夫		谷 賢一	2017. 3/02
	Vol.2 城塞	安部公房		上村聡史	2017. 4/13
	Vol.3 マリアの首 -幻に長崎を想う曲-	田中千禾夫		小川絵梨子	2017. 5/10
	<b>[JAPAN MEETS... ー現代劇の系譜をひもとくー]</b>				
	XI 君が人生の時	ウィリアム・サローヤン	翻訳 浦辺千鶴	宮田慶子	2017. 6/13
XII 怒りをこめてふり返れ	ジョン・オズボーン	翻訳 水谷八也	千葉哲也	2017. 7/12	
2017/ 2018	トロイ戦争は起こらない	ジャン・ジロドゥ	翻訳 岩切正一郎	栗山民也	2017. 10/05
	プライムたちの夜	ジョーダン・ハリソン	翻訳 常田景子	宮田慶子	2017. 11/07
	かがみのかなたはたなかのなかに	長塚圭史	振付 近藤良平	長塚圭史	2017. 12/05
	赤道の下のマクベス	鄭 義信		鄭 義信	2018. 3/06
	1984	原作 ジョージ・オーウェル	脚本 ロバート・アイク /ダンカン・マクミラン 翻訳 平川大作	小川絵梨子	2018. 4/12
	ヘンリー五世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	2018. 5/17
	夢の裂け目	井上ひさし		栗山民也	2018. 6/04
	★消えていくなら朝	蓬萊竜太		宮田慶子	2018. 7/12

★=新作